

## 第3次農林水産業元気再生戦略 平成30年度の取組実績と今後の課題（重点）

### 【戦略1】多様な人材が活躍できる農業経営の実現

新たな担い手育成確保支援プロジェクト（P1）／農業トップランナー育成・発展プロジェクト（P2）  
スマート農業普及拡大プロジェクト（P3）

### 【戦略2】水田農業の収益性の向上

県産米ブランド化戦略プロジェクト（P4）／需要に応じた米生産対策推進プロジェクト（P5）／  
水田農業低コスト化基盤整備促進プロジェクト（P6）

### 【戦略3】「園芸大国やまがた」の実現

山形さくらんぼ世界一ブランド強化プロジェクト（P7）／園芸作物大規模集積団地推進プロジェクト（P8）

### 【戦略4】県産農林水産物の魅力の向上と販売促進

農林漁業者自らの6次産業化プロジェクト（P9）／農林漁業者と食品製造業者等との連携による6次産業化  
プロジェクト（P10）／県産農産物等輸出拡大プロジェクト（P11）／安全農産物生産推進プロジェクト（P12）

### 【戦略5】畜産業の競争力強化

地域で支える畜産クラスター推進プロジェクト（P13）／酪農生産性向上・消費拡大プロジェクト（P14）

### 【戦略6】「やまがた森林ノミクス」の推進

再造林推進プロジェクト（P15）／県産木材安定供給プロジェクト（P16）

### 【戦略7】水産業のさらなる振興

海面漁業生産基盤強化プロジェクト（P17）／県産水産物利用拡大プロジェクト（P18）

# 【戦略1】多様な人材が活躍できる農業経営の実現

# (その1)

新規就農者の更なる確保・育成や地域農業を牽引するトップランナー・スーパートップランナーの育成、多様な人材が総活躍できる農業経営の実現を目指していく。

## (1) 人材の育成・確保 ～意欲ある新規就農者の確保・育成と地域農業を支える多様な人材の確保～

### ① 新たな担い手育成確保支援プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
新規就農者数 (4年間累計)	1,095人 (H24～27)	344人 (H29単年度)	340人 (単年度)	1,400人

#### 【30年度の取組み】

##### ○新規就農者の確保・育成対策

- ・新規就農者向けのパンフレットを3,000部作成し、関係機関への配付や相談対応で活用
- ・やまがた農業支援センターに設置しているワンストップ相談窓口において各種相談に対応(10月末現在受付件数92件)
- ・農業専門求人情報業者のメーリングリストを活用したメールマガジンを発信(4回)
- ・新・農業人フェア(7/28東京、9/1東京)への出展により就農希望者の相談対応を実施
- ・農業短期体験の実施による動機付け



新規就農者向けパンフレット



新・農業人フェアにおける相談対応状況

##### ○農地と技術の一体的継承の推進

- ・地域における遊休農地等を活用し、新規就農者への農地等の経営基盤と技術を円滑に継承するためのモデル的な取組みを実施する地域を支援(13地域)



熟練農業者による農作業の指導

##### <今後の取組み予定>

- やまがた農業支援センターに設置しているワンストップ相談窓口において各種相談を実施
- 新・農業人フェア(1月東京)への出展による就農希望者の相談対応
- 全国の新規就農に興味を持つ人に対するメールマガジンの発信(11月～2月)
- 農業短期体験の実施による動機付けの強化(11月～2月)

#### 【評価と課題】

##### ○新規就農者の確保・育成支援

- ・新規就農者の確保・育成のための動機付けから就農までのきめ細かな支援により新規就農者は着実に増加(H28調査300人 H29調査309人 H30調査344人)
- ・産業全体で人手不足が生じていることから、農業の新たな担い手を確保するため、動機付けとなる情報発信の更なる強化が必要

##### ○農地と技術の一体的継承の推進

- ・更なる新規就農者の確保を図るため、就農希望者が熟練農業者から農地と技術を一体的に継承する取組みを県全域に拡大することが必要

# 【戦略1】多様な人材が活躍できる農業経営の実現

# (その2)

## (2) 経営体育成 ～地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成～

### ① 農業トップランナー育成・発展プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
トップランナー数	957経営体 (H27)	—	—	2,000 経営体
スーパートップランナー数 ※トップランナーの内数	128経営体 (H27)	—	—	260 経営体
販売金額1,000万円以上の 家族経営体数	2,351経営体 (H27)	3,000 経営体 (H29)	3,300 経営体	3,500 経営体
販売金額3,000万円以上の 組織経営体数	199経営体 (H27)	390 経営体 (H28)	450 経営体	550 経営体

#### 【30年度の取組み】

##### ○農業経営の優良事例の情報発信の強化

- ・農業経営の優良事例をホームページ等へ掲載
- ・認定農業者等と生産力の高い企業的経営体の交流会を開催  
(山形県認定農業者協議会研修会・交流会 9/10)

##### ○トップランナー・スーパートップランナーの育成支援

- ・商工系団体等も構成員に加えた山形県農業経営相談所を設置・運営  
(5/9～、事務局:公益財団法人やまがた農業支援センター)
- ・農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び税理士等の専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導を実施  
(専門家の派遣回数 55回 (10月末時点))
- ・経営発展の取組みに対するオーダーメイド型支援  
(事業計画採択件数 トップランナー育成支援事業 20件、  
スーパートップランナー育成支援事業 1件)
- ・「やまがた農業経営塾」を開催 (受講者 15名)



「やまがた農業経営塾」の開催状況 (開講式・グループワーク)

#### <今後の取組み予定>

- 山形県農業経営相談所の運営
- 農業経営支援チーム・実践チームによる支援対象者のリストアップ及び税理士等の専門家の派遣による法人化、経営発展等のための助言・指導
- 「やまがた農業経営塾」の運営 (～2/20 閉講式)

#### 【評価と課題】

- 「やまがた農業経営塾」は、平成30年度は10名の募集に対して15名が受講し、専門家の助言を受け事業計画を策定中
- 認定農業者10,100経営体のうち法人は484経営体(平成30年3月末時点)で、前年より38経営体増加。また、集落営農組織481組織のうち法人化した組織は123組織(平成30年2月1日時点)で、前年より5組織増加
- 支援対象者のリストアップが少ない地域があるため、引き続き農業経営支援チームによる支援対象者のリストアップを進め、各種支援策を通して地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成を推進することが必要

## (2) 経営体育成 ～地域農業を牽引する競争力の高い経営体の育成～

### ⑦ スマート農業普及拡大プロジェクト

#### 【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30目標値	H32目標値
県内における「スマート農業」の取組件数(累計)	—	23件(H29)	30件	50件

#### 【30年度の取組み】

##### ○少ない労力のできる農業の実現

- ・水田水管理の省力化のため、給排水遠隔制御装置を2か所のほ場に設置し、インターネットによる遠隔操作を実証
- ・すいかの生産工程改善のため、2経営体にIT管理ツールを導入して作業管理を実証
- ・試験研究では、営農情報管理システム導入による大規模稲作経営支援技術の実証(県内2か所)や、おうとうの軽労的な樹形等の開発など、新規1課題、継続2課題を実施



給排水遠隔制御装置の設置

##### ○生産性が高い農業の実現

- ・りんご・すいかの病害感染予測のため、小型気象観測装置を、りんご、すいかほ場各5か所に設置し、ほ場における気象観測データを蓄積  
すいかについては、同装置の病害発生予測のメール発信機能を活用し、効果的な防除指導を実証
- ・試験研究では、次世代型低コスト大型ハウスの実証やリモートセンシング技術を活用した水稲広域診断技術、ICT養液土耕システムの実証など、新規1課題、継続4課題を実施



園地へ小型気象観測装置の設置

##### ○意欲ある若手への熟練技術の継承

- ・ハウス栽培管理のモニタリングによる技術継承システムを実証し、きゅうり栽培の熟練生産者及び若手生産者のハウスにそれぞれセンサーを設置して、栽培管理データの取得、閲覧
- ・試験研究では、おうとう大玉生産技術の開発や高泌乳牛の栄養管理技術の確立の継続2課題を実施



きゅうりハウスの温度のモニタリング

#### <今後の取組み予定>

##### ○少ない労力のできる農業の実現

- ・水田へ設置した機器の動作履歴データを確認し、水管理の省力性を検証
- ・すいかの作業管理データを確認し、作業の効率化を検証
- ・3研究課題それぞれのデータの取りまとめ

##### ○生産性が高い農業の実現

- ・りんごほ場では取得した気象観測データを病害感染日の推定に活用し、すいかほ場では気象観測データと実際の発病の関係を検証
- ・5研究課題それぞれのデータの取りまとめ

##### ○意欲ある若手への熟練技術の継承

- ・ハウス栽培管理のデータを解析するとともに、両者の比較から若手生産者の収量面などでの効果を検証
- ・2研究課題それぞれのデータの取りまとめ

##### ○スマート農業普及推進フォーラム(仮称)の開催

#### 【評価と課題】

- 研究課題については、概ね計画どおりの進捗状況となっており、今後は、データを取りまとめている
- 実用段階にある技術については計画どおりに現場に導入、実証に取り組んでいる。今年度の実績から、導入効果等について検証を行っていくことが必要